

令和元年度 第1回総合教育会議 会議録

日 時 令和元年8月2日（金）午前8時45分～9時45分

場 所 市役所本館3階 対策室3

出席者 新潟市長

中原 八一

教育委員会

教育長

前田 秀子

委員

佐藤 久栄、上田 晋三、田中 賢一、渡邊 節子

山倉 茂美、小野沢 裕子、市嶋 洋介、渡邊 純子

事務局出席者 市長部局

政策企画部長 三富 健二郎、政策調整課長 野坂 俊之

教育委員会事務局

教育次長 高居 和夫、古俣 泰規、教育総務課長 渡邊 剛

議 題

「新潟市教育ビジョン第4期実施計画（案）について」

○司会
(政策企画部長)

これより令和元年度第1回総合教育会議を開催いたします。

本日は朝早い時間から、また、大変暑い中お集まりをいただきまして、ありがとうございます。司会を務めさせていただきます、政策企画部長の三富でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日は、令和2年度から始まります、新潟市教育ビジョン第4期実施計画につきまして、本市の教育ビジョンに掲げました3つの基本目標である、「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」、「生涯を通じて学び育つ、創造力と人間力あふれる新潟市民」、「自立した学びと開かれた学びを支援する学習環境」、この3つの実現に向けた考え方や視点、取組などにつきましてご意見を頂戴したいと考えております。

それでは、ここからの議事進行は、中原市長にお願いします。よろしくお願いいたします。

○市長

改めて、おはようございます。よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきたいと思います。新潟市教育ビジョン第4期実施計画（案）について、事務局から説明をお願いします。

○事務局
(教育総務課長)

おはようございます。教育総務課長の渡邊でございます。私の方から新潟市教育ビジョン第4期実施計画（案）についての説明をさせていただきます。

それでは、「新潟市教育ビジョン第4期実施計画（案）について」という表題の資料をご覧ください。

まず、1ページをお開きください。「新潟市教育ビジョン基本目標」という表題になっております。本市では平成19年度より3つの基本目標を示しました基本構想に基づいて、具体的な実施計画を策定して教育の実施を行ってまいりました。そして、第3期実施計画に基づく事業の実施状況、成果や課題などを踏まえまして、昨年度より第4実施計画の策定を進めてまいったところです。

第4期実施計画につきましても、来年度から令和6年度までの5年間の計画期間としておりますけれども、現在パブリックコメントを実施しているところでございます。

2ページをご覧ください。「第4期実施計画の中心的な考え方」についてでございます。こちらは、第4期実施計画の一番の特徴ということで、中心的な考え方を示しまして、本市の教育の方向性をより明確にしたというものです。「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」がその中心的な考え

方でございます。これまで成果を上げてきました「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」はサブタイトルとして掲げたところです。

3ページをご覧ください。今ほどの中心的な考え方についてご説明いたします。まず、「これからの社会」という用語がありますが、こちらについては、人口減少や高齢化、グローバル化の進展に伴う外国人とのかかわりの増加、そして超スマート社会の実現など、これまで誰も経験したことのない社会のことを指しております。本市におきましても、若者の県外流出等による人口減少や高齢化により、地域の活性化とそれを推し進める人材の確保や育成が必要となっておりま

す。

4ページをご覧ください。そうした社会の中で学びを活かしたり、他者と協働したりしながら、課題解決や自己実現に向けて様々なことに挑戦し続けるなど、たくましく生き抜く力を育てることで、主体的に物事を成し遂げることができる人材を、学・社・民が一体となって育成してまいります。

5ページをご覧ください。「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を中心的な考え方として、それを実現するための手立てとして、5つの視点を設定したものでございます。この図の下の方ですが、誰もが安心して学ぶことができる教育・学習環境づくりを目的とする「学びの基盤を固める2つの視点」を土台としまして、その上にこれからの社会をたくましく生き抜く力を育てていくための、「新潟市の教育を推進する3つの視点」を設定したところでございます。

まず、「新潟市の教育を推進する3つの視点」の方から説明いたします。6ページをご覧ください。視点1ですが、これは主として学校教育を念頭に置いております。これからの社会をたくましく生き抜く力として、自信を持って自分の目標に挑戦していく姿勢を育てたいと考えております。そのために、体験を通じて子どもたち一人一人の自己肯定感を高めることや、互いに認め合う集団づくりを大切にしていきます。また、これからの社会で自己実現をしていくために必要なスキルとして、英語やICTを活用する力を高め、それらを活用したコミュニケーション力を高めてまいります。

次に、7ページをご覧ください。視点2でございます。こちらは主として生涯学習を念頭に置いたものです。誰もがいくつになっても何度でも学ぶことができるよう、学習ニーズに応じた多様な学習機会を、子育て世代も含めた各世代に提供してまいります。学んだことを他の人に伝えたり、地域の

ために活かしたりできるように支援を行うことにより循環型生涯学習を推進してまいります。

次に、8ページをご覧ください。視点3でございます。こちらはコミュニティ・スクールの設置を念頭に置いたものでございます。地域総がかりで子どもを育てることができるように、地域と学校が目標を共有し、役割と責任を分担するように、仕組みを整えてまいります。この仕組みにより、地域の力を活かした学習活動がより充実したものになり、地域人材の活躍の場が生まれます。また、学校の多忙化を招いてきた諸会議を精選することができます。

次に、「学びの基盤を固める2つの視点」について、ご説明します。9ページをご覧ください。まず、視点4ですが、こちらは特別支援、いじめ、不登校、経済的な問題、家庭の問題等、一人一人の困っている状況や意欲に応じた多様な支援を行うことによりまして、誰もが安心して学べるようにしてまいります。

10ページをご覧ください。視点5についてですが、中心的な考え方の実現に向けた研修を充実させると共に、働き方改革を踏まえて、研修の精選を行います。資質能力を高め、ゆとりを持って市民や子どもと接することができるようにすることで、子どもや市民に信頼される教育関係職員であるようにしてまいります。

そして、最後に11ページです。ここでは今後のスケジュールを示してございます。現在実施中のパブリックコメントは8月9日までの予定としております。その後、9月中にパブリックコメントへの回答を公表いたします。そして、それとともに実施計画案について必要な修正を行ってまいります。そして9月から12月にかけて、事業と指標の策定を行い、2月に完成ということで予定しております。

以上で、新潟市教育ビジョン第4期実施計画（案）の概要についての説明を終わらせていただきます。「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を合い言葉に、新潟市が丸となって取り組むことができる実施計画にしたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

なお、主な施策の内容など、詳細につきましては、お手元冊子の「新潟市教育ビジョン第4期実施計画（案）」をお配りしておりますので、こちらをご覧くださいと思います。

ありがとうございました。

それでは、今回の実施計画案の考え方や視点、取組などについて、委員の皆様からご意見をお願いしたいと思います。

○市長

○田中委員

私は視点1にかかわって、子どもの自己肯定感を高めるといふことについて、若干意見を述べさせていただきたいと思ひます。皆様ご存じのように、昨日の報道にもありましたように、文科省はこの7月31日に今年度の全国学力学習状況調査の結果を公表しました。全国の小学校6年生と、中学校3年生を対象にしまして、国語、算数、数学等の問題と共に、質問紙による調査も例年行われております。その中で、例えば、「自分には良いところがあると思ひますか」という質問に対しまして、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した新潟市の小学生は、85.1パーセントでして、これは全国平均よりも3.9ポイントの増となっております。また、新潟市の中学生は77.9パーセントで、こちらも全国平均よりも3.8ポイントの増となっております。この質問というものは毎年行われておりまして、全国平均との比較では、今年の方が昨年よりも1から2ポイント近く高まっております。日本の子どもは自己肯定感が低いと一般的に言われている中で、新潟市の子どもたちの自己肯定感が徐々に高まってきているといふのは、学校現場の先生方が、子どもたち一人一人の良い点や、可能性を見つけてほめるなどの取組を積極的に行っている証左だ、と私は考えています。また、この取組を学校便りなどで家庭や地域に情報発信したり、地域と学校パートナーシップ事業で子どもたちと地域の大人と一緒に活動することなどによりまして、保護者や地域の方々から称賛される機会が増えてきたからだ、とも考えています。

自己肯定感といひますと、良い面だけが取り上げられる傾向がありますが、人間には長所もあれば短所もあります。これからの社会の担い手となる子どもたちが、その長所だけでなく、短所も含めた自分らしさとか、個性というものに自信を持って、一人一人が自己実現を図ることができるよう、学校はもちろん、家庭や地域において、共に子どもを育てていく、共に子どもの自己肯定感を育む必要があると考えています。そのためには、学校の教育目標や取組を家庭や地域と共有し、開かれた教育課程のもと、中学校区単位で未来の子ども像というものをしっかりと描きながら、学校、家庭、地域が一体となって、それこそ市長のおっしゃる「人とのかわり」とか、「多様性」を重視する教育を積極的に推進する必要があると私は考えております。

○市長

ありがとうございました。

○渡邊純子委員

私は視点2の社会教育に関して少し意見を述べさせていただきます。人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進

というのは、ますます重要になってくると思います。「にいがた市民大学」は、生涯学習の一環としての事業で、新潟にかかわる講座なども多岐に渡っており、私も受講しておりますが、とても充実していると思います。市民が学び合い、学びを深め心豊かに生活していくということ、学んだ知識や成果を地域や次世代に伝えていくこと、そういう還元できるシステム作りはこれから更に大事であると思っております。また、家庭教育の中で子育て支援の充実ということも言われておりますが、乳児期からの読書活動というのが大事だと思っております。新潟市が2011年から始めた「ブックスタート」という事業は、図書館ボランティアが保護者と赤ちゃんに読み聞かせをして、絵本を手渡すという事業です。これは、交流、コミュニケーション能力を高めるということもありますし、世代間の交流を深めるという意味で、循環型生涯学習として大変評価できていると思っております。

○市長

ありがとうございました。

○山倉委員

山倉です。お願いします。「地域と一体となった学校づくりを進める」ということで、私も思いを少しお話しさせていただきたいと思っております。今、災害時の避難や、登下校の見守りなど、安心安全の取組などがありまして、地域と一体となった学校づくりが、ますます大切になってきていることを感じます。地域の方の生涯学習や、地域の茶の間の場として、空き教室、パソコン教室、図書館などを利用してもらうことで、学校に親しみを持ってもらい、そこから一歩進んで新たな学習支援ボランティアに発展してくれるといいなと期待しております。ただ、地域の方が子どもたちに一方的に何かしてあげるのではなく、子どもたちも積極的に地域の行事に参加したり、避難所運営を一緒に考えたりすることで、お互いに何ができるかという協力関係が生まれてくると思います。地域と学校、そして子どもたちが普段から顔の見える関係を作ることによって、人と人のつながりができ、子どもたちの地域への愛着や関心が育ってくれることを期待しております。

○市長

ありがとうございました。

○市嶋委員

よろしくお願いたします。市嶋と申します。私も視点3の「地域と一体となった学校づくり」の部分でご意見させていただきたいと思っております。現在、新潟市は、校長先生や先生方のご努力と地域教育コーディネーターの方々のご活躍で、「地域と一体となった学校づくり」が、地域と非常に密着して良い活動になっていると強く感じ、素晴らしいと思っております。今後実施されるコミュニティ・スクールにおいて、

このすばらしい取組を維持しながら、地域の方々への更なる協力体制の構築とともに、コンプライアンスなど、学校にかかわるの方々への研修制度なども充実させていただきたいと思っています。また、コミュニティ・スクールを知らない方も大勢いらっしゃると思いますし、誰がどのようにかかわることができるのか、ということをごきちんと知らせていくということも大切だと思っていますので、保護者、企業、地域で活動されているような団体などにコミュニティ・スクールのことを具体的に知らせていただき、より多くの方々にかかわってもらいたいと思っています。

○市長

ありがとうございました。

○佐藤委員

佐藤でございます。よろしくお願ひいたします。私も視点3の「地域と一体となった学校づくり」のところでお話しをさせていただきます。この視点において私が課題と感じているのは、地域と学校の連携は良いのですが、保護者の参画が低迷しているのではないかと、という点です。それに関係してPTAと教育委員会の連携についても少し触れさせてもらいたいと思っています。今ほど市嶋委員からもお話しがありましたように、地域と学校パートナーシップ事業は10年以上継続している事業で、地域の方々との連携はとても素晴らしいものに成長していると強く感じているところです。反面、その連携の輪に保護者の顔はほとんど見えていないように思います。一昨日、西区の教育ミーティングが開催されましたが、参加された方から同じ意見が出ておりました。学校とのかかわりを持っておられる地域の方々には、特にこの点を危惧していることが分かりました。保護者の参加が低迷している理由の1つとしては、子育て世代は共働きということで、仕事の関係で学校行事やPTA活動に参加できないというのが実情だと思います。そのような中で、企業では有給休暇の年間5日以上取得を義務化する法令が今年度からスタートしたところです。しかし、中小企業の実情として有給休暇を取得しにくく、特にその理由がPTA活動となると、更に休みにくい雰囲気があるというようなことも耳にしているところがございます。この点で企業の意識改革が必要ですし、更に言わせていただくと、企業だけではなく保護者も意識改革が必要であると思っています。仕事を理由にPTA活動から逃れられるようなネガティブな発想があるのではと感じております。PTA活動のために有給休暇を取得し、積極的に活動に参加するようなポジティブな保護者が増えて欲しいと思っています。

ここからは提案になりますが、学校行事やPTA活動に参加するための有給休暇取得に積極的な企業を表彰するとか、何らかの認定制度を構築するなど、保護者が地域活動や学校行事、PTA活動に積極的に参画できる風土づくりをしてはどうかと考えています。例えば、小中学生を持つ従業員がいる会社の場合、会社の方から学校行事やPTA活動で休む日を年度初めに調査・把握するなどの活動をしている企業や、小中学生がいるのに会社を休まないって逆におかしいよ、というような社風を持っている会社を表彰してはと考えております。保護者を巻き込んだ本当の意味での「学・社・民の融合」のためには、「地域の方々、保護者、企業の融合」が必要と考えています。

この関係でもう一点お話しさせてください。PTAと教育委員会の連携についてです。私が調べたところ、本来PTAというのは各都道府県の教育委員会が所管になっています。新潟県教育委員会でも、教育委員会主催でPTA研修会の実施や「新潟県PTA活動の手引き」という冊子の作成など、PTA活動の活性化に向けた取組を行っています。新潟市においては、政令市移行と併せて新潟市のPTA連合会も、新潟県PTA連合会から独立しました。このような経緯から、新潟市PTA連合会は独自の活動をされています。また、新潟市の教育委員会も新潟市PTA連合会との連携がほとんどできていないと感じています。年1回の教育委員との意見交換のみで交流程度に留まっているのが現状ということでございます。私は、新潟市教育委員会がもっと積極的にアプローチし、同じ方向を向いて活動するための勉強会や研修会などをしていくべきと考えております。

地域と一体となった学校づくりのために必要不可欠な保護者の参画を向上するという目的で、保護者が学校行事に積極的に参加できる風土づくりのための提案と、新潟市教育委員会と新潟市PTA連合会の積極的連携についてお話しさせていただきました。

ありがとうございました。

○市長
○上田委員

私は視点4の「誰もが安心して学べる環境づくりを進めます」というところで意見をさせていただきます。今、ゲームで遊ぶ子どもたちがとても多いと思います。ゲームは人と接することも少なく、自分本位で内容を進めていける道具と思っています。また、家庭環境も、兄弟姉妹や家族がたくさんいる中で過ごしていた昔とは違い、兄弟姉妹も少なく、核家族化により、親もいない中で食事をする子どもも増えてきて

いるということを聞いています。ですから、目の前にいる友達がどういう思いをしているのかということ、生活や遊びの中で学ぶ時間が減っていると思っています。安心安全な学級づくりのために、心が傷ついたり、いやな気持ちになった言葉、嬉しくなった言葉がどんな言葉なのか、お互いに学んだり話し合うなどして共有してもらいたいと思っています。また、相手の気持ちを考えられるように、月1回でも2回でもクラス全員で遊ぶ機会を作っていただきたいと思います。お互いの気持ちを理解し、想像できる力を作れるような教育を進めていただきたいと思います。

○小野沢委員

小野沢です。よろしくお願いします。私も視点4「誰もが安心して学べる環境づくり」、これについて考えていることをお伝えしたいと思います。今、国会でもバリアフリー化が注目を集めていて、学びやすい環境整備の充実は進めてほしいと思いますが、私たちにとって分からないことばかりなのです。教育ミーティングで、インクルーシブ教育システムについて質問が出ました。障がいのあるなしにかかわらず、一緒に学び、そこからいろいろな体験を通して、お互いを思いやる気持ちを育てていく、ということなのですけれども、接することがないと分からないことだらけなのです。人の想像力とか、思いやりがこういったところでは大切です、といわれるのですが、経験したことがないと、思いをそこに寄せることができない。ですから、ここに書いてある「一人一人の困っている状況や意欲に応じた多様な支援を行う」ということはとても素晴らしいと思うのです。一人一人の困り事はみんな違うので、そういう人たちが、声を上げやすい環境、そして、それを丁寧に聞いてくれる人がいて、何か実現しよう、難しいかもしれないけれども、実現できる方法はないだろうか、知恵を出し合って進めてくれる人たちがいる。これが安心して学んでいける環境づくりにもなると思います。

特別支援学級に通っているお子さんも、それぞれの障がいも様々です。中には、トイレのために保護者が1時間おきに学校に行っているというケースもあると聞きました。「保護者の安心」というものも、この中に加えていただけたらと思います。私たちは自分が経験したこと以上のことはなかなか分からない、ということをお伝えしましたが、色々な話を聞くことでもいいのです。新潟市の皆さんが色々な人とかわって、様々なところで想像力を高めていけるようになったらいいと思います。

「ぐみの木だより」(市教育相談センターの広報誌)をいつ

も送っていただくのですが、その中に教育相談部の遠藤さんが、平成 31 年 2 月 22 日に出してくださった文章があって、遠藤さんは白鳥の生の姿を見たのが新潟に来てからで、その時初めて聞いた鳴き声が「ガウガウ」という非常にうるさい声で、実際のイメージと随分違って、その後「コウコウ」という声も分かったけれども、「ガウガウ」といううるさい声しか印象になかった。それを聞いていた時に小さなお子さんが言った「白鳥さんってお友達と離れないようにあんな声で鳴くんだね」という言葉が非常に印象的だったという文章があるのです。小さな子どもの「白鳥さんたちはいつも仲良く飛んでいるから、迷子になる白鳥さんがいたらかわいそうだもんね。声がかれても大きな声で鳴くんだね」という言葉を「発見」した時に、私はすごく嬉しく感じました。色々な人とかかわっていく中で発見する事に想像力を加えて、「誰もが安心して学べる」新潟市の環境づくりというのを進めていただけたらと思います。

丁寧に話を聞く環境、何でも言える環境、何とかそれらを実現しようと骨を折って知恵を出してくださる皆さんがいる、そんな新潟市の教育をぜひ実現していただきたいと思います。

○渡邊節子委員

私も「誰もが安心して学べる環境づくり」という視点についてお話しさせてください。今、小野沢委員の話を聞いて、大変重なるところが多いと思っていました。

私は、自分がスクールカウンセラーをずっとしてきたということもあり、学校に通えない、長期間休んで学校で学ぶことが難しいという子どもたちのことがいつも頭の中にあります。また、これまで私が参加した各区の教育ミーティングでも、そのような子どもを心配される地域の方の声が上がっています。私は、そのような子どもへの支援を考える時に、まず、学校や周囲の何がその子どもを通いづらくさせているのかという視点が大切だと考えています。そして、必要に応じて学校が変わっていくこと、そのためには学校を支える私たちのような学校の外の大人や市民の方々が変わっていくことも大切だと考えています。

そのような観点で、学校だけでなく、子どもがつながれる場があれば、そこでの学びも尊重することが大切と考えます。実際に学校に行けない子どもの中には、寺子屋のような塾やフリースクールのようなところに行くことができたり、音楽やスポーツの活動が支えになっていたり、少し遠くまで足を伸ばして、職人さんのところで自分の学びたいことを学ぶと

か、地域の方と交流することが学びの大切な場になっているということがあります。そのような場を子どもの資源として積極的に認めて連携を図ろうとする姿勢、双方に交流し対話しようとする姿勢が公教育として大切ではないかと考えています。時には、教育委員会や学校に話しても伝わらない、まるで響かないというような声が聞かれることがあります。そういったことができるだけ少なくなるように保護者だけでなく、地域の方や他の組織などとかかわりを持って、柔軟に考えていくことが大切ではないかと思っています。子どもを真ん中にして、それを支える大人同士も対話し、他者の視点を理解して必要なことは取り入れていく、そのような取組を続けていけると良いと考えています。

学校では、対話を重視して教育活動を進めていると思いますが、子どもとの関係に加えて、教育に関わる大人が相互に対話の姿勢を持つことが必要ではないかと考えています。また、今後も教育相談センターをはじめ様々な市の機関で学びの保障のための取組も進めていってほしいですし、渡邊純子委員から話のあった学びの循環、生涯学習の場での学びということも充実させていけるといいと考えています。

そのようなことを考えると、新潟市教育ビジョンの学校、家庭や地域、民間の融合による取組は、学びの保障の観点からも大変大切な基盤であるということ、今回、改めて感じています。これからも続けて取り組んでいけるとよいと考えています。

○市長

委員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。皆様のご意見は第4期実施計画案に盛り込まれた5つの視点に関連したものであると思いますので、5つの視点でまとめて私からお話ししたいと思います。

視点1の「これからの社会で自信をもって自己実現できる子どもの育成」については、自己肯定感に触れていただきました。教育ビジョン第4期実施計画案の中心的な考え方として掲げられた、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」に向けて、一人一人の子どもたちの自己肯定感をはぐくむということの重要性を認識させていただきました。周囲の子どもたちが応援する雰囲気づくりをはじめ、学校だけではなく、保護者や地域の方の力を結集して子どもたちを支え、子どもたちが様々な人とかかわりを通じて自己肯定感がはぐくまれる教育を進めていただきたいと思います。また、子どもたちが社会に出て自分の夢の実現を図るためには、コミュニケーション能力が大変重要であると思っています。今後

は、国際化の進展の中で外国の方々とのかかわりも増えると思いますので、外国語教育、国際理解教育にも力を入れていただきたいと思います。

視点2の「学びの循環による人づくり、地域づくり」についてです。私たちの人生ですけれども、人生100年時代を迎えていると言われていています。そうした状況の中で、市民が学んだ知識や成果を自らの活動に活かしていく、教育と実践の好循環が生まれるような生涯学習教育の推進は重要です。すでに図書館ボランティアが読み聞かせを行うブックスタート事業など、教育と実践の取組が行われております。こうした取組を他の生涯学習事業にも広げていただくようお願いしたいと思います。

視点3の「地域と一体となった学校づくり」について、ご指摘いただいたように、保護者の方々の共働き世帯の増加ということがあり、保護者の方々を取り巻く環境は変化しています。これまで、教育委員会が進めてきた、地域と一体となった学校づくりについては、こうした観点からも今後も推進する必要があると考えています。

有給休暇の積極的な取得には、企業を始め、社会全体の意識改革が必要ですので、本市としても、ワーク・ライフ・バランスの推進に率先して努めていきたいと思います。

国が推進するコミュニティ・スクールを本市でも導入していくことで、地域の教育活動を担う人材の発掘や育成などがより一層充実していくものと期待しています。そのためには、公民館などを中心に、地域と一体となった教育がさらに進むよう、市長部局の関係課と連携して取り組んでいく必要があると考えています。

視点4の「誰もが安心して学べる環境づくり」については、子どもたちが安心して学べる環境づくりは大切で、そのためには子どもたちが互いに認め合い、助け合う温かい学校、学級の雰囲気を作っていくことが大切だと思います。全ての子どもたちが安心して楽しく学べる環境づくりに力を入れていただきたい。また、障がいを持った子どもたちも共に活動できる環境を作ることが、互いの立場を理解し、共に生きる社会を作る上で大切であると思っています。学校だけでなく誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていきたいと思えます。

視点5の「教育関係職員の育成」についてですが、ますますこのことについても重要になってきます。子ども一人一人の学びを大切にする。様々な個性や意欲に応じた教育を行う

ことや、これからの社会を見据えて、子どもたちにとって必要な資質や能力とは何かを考えながら、教育を行うことが大事だと思っています。そのために、そうした子どもたちを育むことのできる職員を育成することが大切です。社会や地域と連携しながら、子どもたちの意欲を引き出し、個性に応じた教育を実践できる職員の育成をお願いしたいと思います。私からは以上です。

それでは、本日のご意見を踏まえまして教育長から一言お願いしたいと思います。

○前田教育長

教育委員会では、この第4期実施計画の案を作成するにあたっては、これまでの第3期実施計画の施策の実施状況や、その評価、そして国の動向や社会の変化などを踏まえながら、また、教育ビジョン推進委員会の委員の方々の意見を参考にしながら進めてまいりました。先ほど最初の説明にもありましたが、これからの社会は、人口減少、グローバル化、超スマート社会、また、ソサエティ5.0などといわれていますけれども、近い将来、この十年、二十年後には、日本の労働人口の約49パーセントが、人工知能やロボットで代替できるようになる可能性が高いという推計もあるなど、本当に誰もが経験したことのない予測困難な社会が待っていると思っています。そして、それは子どもたちだけでなく人生100年時代と言われる中、私たちも含めた、すでに大人と言われる人たちもそういう社会を生きていかなければならないと思います。

子どもたちには、社会の変化を前向きに受け止めて意欲と自信を持って自ら主体的にかかわり、いろいろな人たちと協働しながら、よりよい人生、よりよい社会となるように考えて行動できるようになってほしいと思いますし、また、それは私たち大人も同様であって、より豊かな人生、誰もが暮らしやすい、働きやすい、安心安全な、そんなよりよい社会を目指して、様々な人たちと連携、協働し、主体的に考え行動していくことが必要だと思っています。そのためには、子どもを真ん中に置くと、そういうこともやりやすくなるかと思っています。

そして、そのような大人の姿を見せることが、その子どもたちに与える影響も大きいと思っていますので、先ほど佐藤委員や、市長からも、意識改革という言葉が出ましたけれども、何よりもまず企業も含めて、私たち大人の意識を変えていくことが必要だと思っています。

第4期実施計画につきましては、先ほど説明にありました

が、現在パブリックコメントを募集しておりますので、また様々な方々からのご意見も参考に、成案にしていきたいと思っておりますし、そこに付く具体的な事業については、財政的な課題もありますけれども、知恵を出し合って、工夫しながら、できるだけ効果的なものになるようにしていきたいと思っております。

そして教育ビジョンの基本目標に掲げる、3つの目標の実現に向けて、これからの社会をたくましく生き抜く力の育成を目指して、学・社・民の融合による教育、これを一層充実発展させていきたいと考えています。

○市長

ありがとうございました。そのほか皆様から他にご意見はございますか。

第4期実施計画では新たに5つの視点により「これからの社会をたくましく生き抜く力」の育成に向けて、学・社・民の融合による教育をさらに推進していくことが確認できました。本日の実施計画に対する考え方や、ご意見などを踏まえ、今年度末に期限を迎える本市の教育の大綱について、次回の総合教育会議で案をお示ししたいと考えています。

それでは、本日の会議の議題は全て終了いたしました。進行を事務局にお返しします。

○司会
(政策企画部長)

本日は活発な意見交換を頂戴しましてありがとうございました。次回の会議日程につきましては、日程調整をさせていただいた上で、改めてご連絡させていただきます。

それでは、これを持ちまして令和元年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。